

インスリンの注射部位を確認した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、インスリン製剤を持参された患者について、注射部位を確認し、適切な注射方法を指導したプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶原疾患に対する治療目的で入院された患者
以下のインスリン製剤を持参された

【持参薬（一部抜粋）】

- ・ノボラピッド注フレックスタッチ
- ・ライゾデグ配合注フレックスタッチ



Gさん

持参薬確認時

ご自身でインスリンは注射されているんですね。
注射する部位はどこですか。

下腹ですが、右側は打ちにくいので左側の同じ場所に打つことが多いです。

そうでしたか。同じ場所に続けて注射することで、皮膚が硬くなったり、膨らみができることがあります。そうなると、インスリンの吸収にも影響し、血糖コントロール不良の原因にもなるため、注射部位は毎回ずらすようにお願いします。
お腹の皮膚が硬くなったりしていないですか。

そうなんですね、分かりました。
硬くなったりはしていないと思いますが、先生にも見てもらいますね。



Gさん

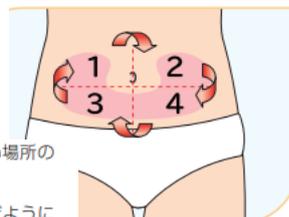


薬剤師

その後、担当医にインスリンの注射部位に関して報告した。担当医より皮膚科に紹介され、明らかな皮膚硬結や膨らみはなかったが、改めてインスリンの注射部位をずらすように指導がなされた。

インスリンの注射部位を確認し、適切な注射方法を指導することで、皮下硬結の発生予防に繋げることができた。

※参考文献：インスリン自己注射ガイド
(日本糖尿病協会)



注射部位のローテーション方法(一例)

注射部位を4分割し、1箇所を1週間使用します(注射の度に穿刺部位のローテーションを行う)。常に時計周りの方向に、分割した部位を1週間おきに変更します。まんぜんと打つと打ちやすい同部位に集まりがちになります。

- ◆注射部位は定期的に変更しましょう。注射する部位をすこしずつずらして、広い場所の中で動かす気持ちで、行いましょう。
- ◆同じ場所に注射していると、皮膚が硬く盛り上がりたり、赤くなったり、むくんだようになつたりします。インスリンの効きが悪くなるので場所を変更してください。